

社協ワーカーだより

No.54 平成29年3月

地域みなさんや関係機関の方々に向けて社協ワーカー（職員）の動きや社協の事業について情報発信するお便りです！！



発行：福岡市社会福祉協議会地域福祉課（Tel720-5356）
各区社会福祉協議会

「ふれあい かすみ号」運行開始！！

～地域との協働による移動支援モデル事業～

今後ますます高齢化が進行する中では、「商店が遠い」「公共交通機関がない」などの理由から、日々の買い物や通院に困る方が今以上に増えていくことが懸念されています。福岡市社協では、そのような方たちへの移動支援の取組みの一つとして、福岡市から「移動支援モデル事業」を受託しています（平成28年度～）。

この事業は、10人乗りのワゴンタイプの車両を地域に貸し出し、住民がボランティアとして車の運転や付き添いを行い、高齢者の買い物等を支援するというもので、このたび、東区の香住丘校区で、買い物支援活動「ふれあい かすみ号」の運行が始まりました。

現在15名程度のボランティアが活動を始めており、高齢者を中心とした70名程の方が利用登録されています。

ボランティアや地域の役員が中心となって組織する運行協議会の中で検討を重ねながら、1月16日から試験運行を始め、2月1日の出発式から正式な運行が始まりました。

運行は、月・水・金曜日の週三日です。行き先は校区内にあるスーパーで、食料品をはじめ医薬品や服飾品なども買うことができます。実際に利用している方からは「とても助かっている」という声が聞かれており、中には一週間分の食料などを買い物カゴいっぱいにも買われる姿もありました。



出発式の様子



皆さんに見送られながら出発です！



買い物が終わり、車に乗り込みます



〈参考：全国のその他の支援例〉

移動支援	○乗り合いタクシー ○福祉有償運送 など
買い物支援	○移動販売車 ○商店による各家庭への商品個別配送 など

今後はこのモデル事業の効果を検証し、福岡市における移動や買い物の支援にどのような方法が有効かを検討していくことにしています。

【問い合わせ】福岡市社会福祉協議会 地域福祉課事業開発係（電話：720-5356）

～夫婦でボランティア活動を体験し、継続活動につながった事例～



視覚障がいのある女性から、「カラオケサークルの練習時に選曲ボタン操作などを頼んでいた人が活動できなくなったため、代わりに手伝ってくれる人を探してほしい」と区のボランティアセンター（区社協）に相談がありました。

担当職員は、ボランティアセンターのボランティア登録者に連絡をとりましたが、なかなか都合の合う方が見つかりません。そんなある日、ボランティア登録に来所されたご夫婦に相談してみたところ、ご主人から「妻の体調が心配なので自分も一緒なら活動できる」との返事でした。その後、依頼者の了解もとれたため、ご夫婦2人で活動していただくことになりました。

活動された日の夕方に職員が連絡してみたところ、ご主人から「妻の体調を心配していたが、逆にボランティア活動をすることで元気をもらえて帰ってきた。充実した時間を過ごすことができたので、今後も活動があれば連絡してほしい」といううれしい言葉が返ってきました。

翌月、同じ依頼者から病院同行の相談があったため、そのご夫婦に連絡したところ、活動を受けてもらえることになりました。活動終了後、奥さんは「体調が落ち着いたら定期的な話し相手の活動をしてみたい」と前向きになっておられました。また、ご主人も「仕事がひと段落したらボランティア活動を始めたい」とのことだったため、近々、囲碁の相手をする活動を紹介する予定です。



ボランティアセンターでは、ボランティア相談を受け、活動できる人をつなぐだけでなく、活動する人の自主性を活かし、社会参加のきっかけづくりも支援しています。



今月の 気（KEY）になる！！キーワード

「ネウボラ」



ネウボラとは、フィンランド語で「ネウボ（neuvo）＝アドバイス」「ラ（la）＝場所」“アドバイスの場”という意味で、妊娠期から就学前までの子どもの健やかな成長・発達の支援はもちろん、母親、父親、きょうだい、家族全体の心身の健康サポートを目的とした包括的支援の拠点のことです。

取組みがスタートしたフィンランドでは、最近では親の精神的支援、父親の育児推進がネウボラの重要な役割となっています。

現在、日本でも『ネウボラ日本版』の導入が全国の市町村で始まっており、注目を集めています。



（区社協コメント等）

お問合せ：〇区社会福祉協議会 TEL：〇〇〇－〇〇〇〇